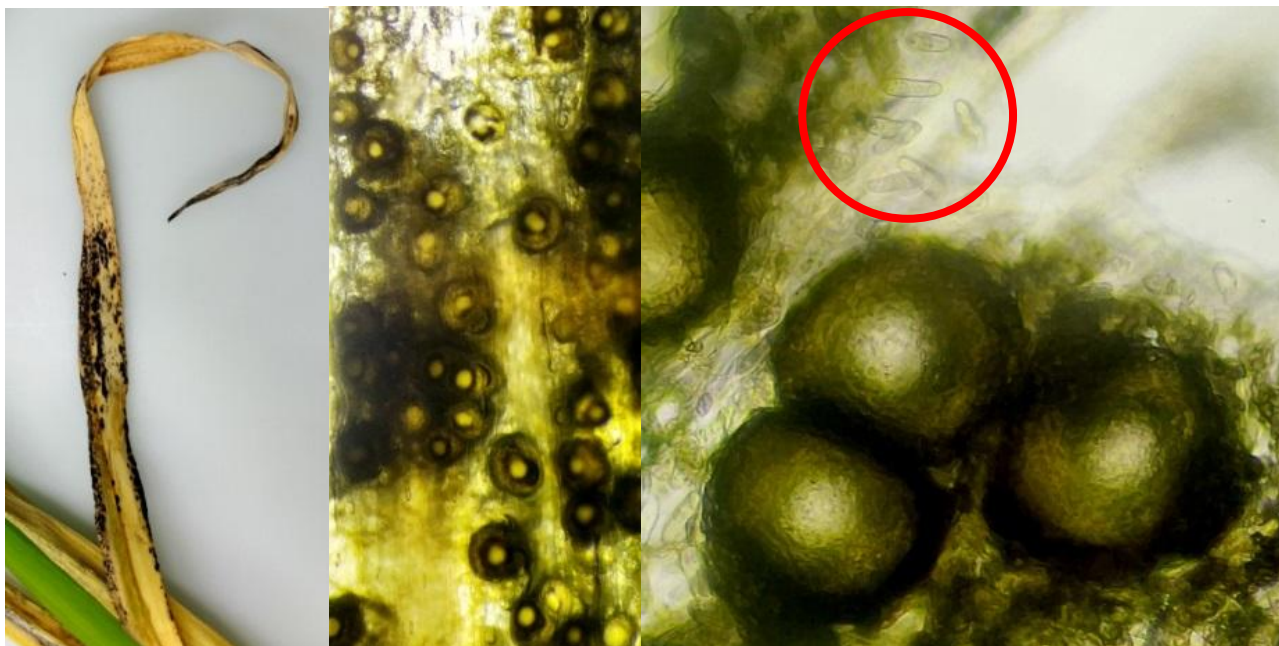


ネギ葉に小黑点を生じる病害



1. **ネギ黒渋病**：葉先から枯れ込み、枯死部に、やや盛り上がった黒変を生じます。この黒変は小黑点の集合したもので、被害組織ごとピンセットで剥ぎ取って顕微鏡で観察すると、球形の偽子のう殻が密に形成されているのが分かります。子のう胞子（赤円内）は長楕円形 2 細胞です。通常、病斑上には無性胞子である分生子が優先的に形成されることが多いのですが、この病害は子のう胞子だけを形成します。偽子のう殻の頂端が乳頭状に突出するのが特徴です。くっきりと白く見えています。



2. **ネギ黒点葉枯病**：葉に灰白色～黄白色、紡錘形～不整形の病斑を生じ、病斑から上が枯れ上がります。病斑上に球形の分生子殻を生じ、肉眼では小黑点に見えます。分生子殻はセロハンテープでは移し取れないので、小黑点のある部分をピンセットで剥ぎ取ってプレパラートにすると、無色棒状の分生子（青円内）の噴出が観察できます。分生子殻を拡大し、内部に焦点を合わせると、殻口に向かって収束するように、棒状の分生子が並んでいるのを見ることができます。